

# 全8回シリーズ：オンラインセミナー 生命科学論文の書き方

- 本セミナーはオンラインで開催されます。
- 詳細は、裏面をご覧ください。

対象：広島大学の研究者（各回定員100名）  
※大学院生も参加可  
新任教員研修プログラムの対象です

## セミナースケジュール

### 2021年

- 【第1回】 2月18日（木） 18:00～19:30  
「論文の構造とIntroductionのMove分析」
- 【第2回】 2月25日（木） 18:00～19:30  
「Introductionにおけるストーリー展開の基本技術」
- 【第3回】 3月4日（木） 18:00～19:30  
「Introductionにおけるストーリーの導入とまとめ方」
- 【第4回】 3月11日（木） 18:00～19:30  
「Resultsにおけるストーリー展開のポイント」
- 【第5回】 3月18日（木） 18:00～19:30  
「Discussionにおけるストーリー展開のポイント」
- 【第6回】 3月25日（木） 18:00～19:30  
「Discussionのまとめ方とIntroductionとの対応」
- 【第7回】 4月1日（木） 18:00～19:30  
「Move分析が示すMethodsの特徴と書き方／Abstractの書き方／Titleの付け方」
- 【第8回】 4月8日（木） 18:00～19:30  
「文の組立て方とライフサイエンス辞書コーパス活用法」

- ※ Microsoft Teamsを利用します。  
参加ご希望の日にちを選んで参加登録を行ってください。
- ※ 1回のみ参加も可能です。

参加登録はこちら→



# 全8回シリーズ：オンラインセミナー

## 生命科学論文の書き方

### 概要

「生命科学論文の書き方セミナー」の対象は、研究室で行った実験の結果をまとめるための生命科学論文、つまり、実験生命科学／実験医学の論文である。臨床医学やフィールドワークの論文は対象外となる。本セミナーは、生命科学系のトップジャーナル30誌に掲載された300論文を、それぞれ12のパートに分割してデータベースを作製し、それらを定量的に解析したMove分析の結果に基づいている。

科学論文全般で最もよく使われる基本パターンはIntroduction, Materials & Methods, Result, and Discussion (IMRaD)の型であるが、生命科学系のトップジャーナルでは、Methodsを付録のような扱いで論文の最後に配置するIRDM型（変形IMRaD型）であることが多い。IRDM型の1番の特徴は、読者がMethodsを読まずにResultsを読むということが前提となる点であろう。生命科学論文のResultsでは、最初に各実験を行う理由や方法の概略を述べ、次に具体的な結果を述べ、最後に結果の解釈を述べるというパターンの繰り返しが代表的である。従って、「Resultsでは結果のみを述べて解釈などは加えない」という論文の書き方の基本は、臨床医学論文にはあてはまっても、実験生命科学論文にはあてはまらないと言えよう。

一方、IntroductionとDiscussionの書き方は、多くの分野の科学論文の間で共通性が高い。Introductionでは、「研究対象の紹介と研究を行う意義」→「先行研究の紹介と問題点の提示」→「本研究の紹介」と順に述べていく。一方、Discussionの流れは、「研究成果の概略」→「研究結果に基づく様々な考察」→「本研究のまとめと展望」となる。また、IntroductionとDiscussionの内容を対応させることも重要なポイントとなる。

生命科学論文では、著者も読者も英語のネイティブではない場合が多く、論文執筆に必ずしも高い英語運用能力が必要なわけではない。明確な意図を持って、一つ一つの文を論理的に組み立てていくことが大きなポイントとなる。本セミナーでは、このような論理的なストーリー展開のための技術と具体的な英語表現とを示しつつ、論文の書き方のコツをできるだけ実践的に示す。

### 講師



#### 河本 健 ライティングセンター特任教授

河本教授は、大阪大学大学院博士課程修了。医学博士。専門は分子生物学と英語論文コーパス研究。基礎医学研究の傍らライフサイエンス辞書プロジェクト (<https://lsd-project.jp/>) のメンバーとしても活動し、学術用語の正しい使い方の啓蒙活動を行ってきました。ライフサイエンス辞書コーパスなどを活用して集めた、学術論文を書くための情報を「ライフサイエンス 英語表現使い分け辞典」「トップジャーナル395編の『型』で書く医学英語論文」など多数の著書にまとめています。